

事業所における自己評価総括表

○事業所名	川崎市子ども発達・相談センターアエルたま			
○保護者評価実施期間	令和6年11月13日 ～ 令和6年11月29日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	令和6年11月13日 ～ 令和6年11月29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	川崎西部地域療育センターが運営することにより医学的 見地を含め、最新の発達支援の手法を導入することがで きます。	・川崎西部地域療育センターと日常的に交流し情報を入 手するようにしています。 ・西部地域療育センター所長（小児精神科医師）からお よそ月1回スーパーバイズを受けています。	・発達支援の経験が長い療育センター職員の派遣を検 討しています。 ・心理士、言語聴覚士、作業療法士等によるスーパ ーバイズを検討しています。
2	保護者支援のプログラムを常に見直し、より充実した育 児支援となるよう進めています。	・ペアレントトレーニングをベースにプログラム（保護 者学習会）を実施しています。 ・西部地域療育センターの保護者プログラムと相互検討 しながら経験を積み上げています。	・川崎市内の子ども・発達相談センター内児童発達支 援事業所と連携して保護者支援プログラムの照らし合 わせから充実へとつなげたいと考えています。
3	アエルみやまえと協働しているため、発達支援の手法、 使用教材、保護者プログラムの内容は常に共有できてお り、検討や実施も同時に行っています。	・研修の企画は合同で実施しています。 ・相互に職場交換研修を行い、視野を広げる工夫をして います。 ・共有後のプログラムは、それぞれの事業所で実践を行 いその後の改善点も共有できています。	・ミニ研修会の回数を増やしたいと考えています。 ・外部研修の受講の回数を増やしたいと考えていま す。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育環境について ・相談事業と協働のため、療育の教室は確保されている ものの保護者学習会を実施する会場が保証されずに適切 な環境で学習会が実施できないことがあります。 ・空調の温度管理ができない事があります。	・戸建て住宅の賃貸物件のため必要数を確保しにくい状 況です。 ・家庭用の空調を各部屋に用意していますが全体的に冷 暖房できない状況です。	・相談事業との優先順位を整理し学習環境を整えたい と考えています。 ・廊下、トイレなど個別に空調ができるように整備を 進めていく計画です。
2	新任職員の人材育成に係る時間が不足していると考えら れます。職員個人での自己啓発に頼ることが多く組織的 な研修計画が進められない現状です。	法人や部署の必須研修は実施していますが、事業所ごと の人材育成研修は、予定した回数を実施できていませ ん。日々の発達支援業務および記録に時間がかかる点が 大きな原因と考えています。	現状は、日々の中で経験豊富な職員が実地で指導して います。経験者に頼りすぎないために年間を通した研 修計画をたて実施したいと考えます。また、実践のス キルアップに加え、基本的な概念の理解について充実 させます。
3	父母会活動等を行なっていません。また、保護者同士の懇談 会の時間設定は少なくなっています。	発達を心配している家族に、なるべく待たせず、かつなるべく 多くの希望者に早期発達支援を提供することを目的にして います。そのため、実際の利用日は週1回3か月間に設定し ています。この間で必要な保護者プログラムを展開している ため、懇談会や父母会活動を深めていくことが困難です。	テーマごとに時間配分を調整し、保護者からの発言が活か されるようなプログラムを検討しています。